

学 科 名			普 通 科				
教 科	科 目	標 準 単 位 数	4 年	5 年		6 年	
				文	理	文	理
国 語	現代の国語	2	2				
	言語文化	2	2				
	論理国語	4					
	文学国語	4		2	2	2	2
	国語表現	4					
	古典探究	4		5	2	3	2
	国語演習(学)	1		1	1	1	1
地理歴史	地理総合	2	2				
	地理探究	3		3 ^s	2	4 ^s	2
	歴史総合	2	2		2		2
	日本史探究	3		3 ^s	2	4 ^s	2
	世界史探究	3		3 ^s		4 ^s	
公 民	公共	2	2	3 ^s			
	倫理	2				4 ^s	
	政治・経済	2					
数 学	数学Ⅰ	3	3				
	数学Ⅱ	4	1	2	3	3	
	数学Ⅲ	3			2		4
	数学A	2	2				
	数学B	2		2	1	1	1
	数学C	2		1	1	1	2
理 科	科学と人間生活	2					
	物理基礎	2	2				
	物理	4			4		5
	化学基礎	2	2	1		2	
	化学	4			4	4	5
	生物基礎	2	2	1		2	
	生物	4			4		5
	地学基礎	2					
	地学	4					
保健体育	体 育	7~8	2	2	2	3	3
	保 健	2	1	1	1		
芸 術	音 楽Ⅰ	2		1	1	1	1
	音 楽Ⅱ	2					
	音 楽Ⅲ	2					
	美 術Ⅰ	2		1	1	1	1
	美 術Ⅱ	2					
	美 術Ⅲ	2		1	1	1	1
	工 芸Ⅰ	2					
	工 芸Ⅱ	2					
	工 芸Ⅲ	2					
	書 道Ⅰ	2		1	1	1	1
	書 道Ⅱ	2					
	書 道Ⅲ	2					
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3				
	英語コミュニケーションⅡ	4		4	4		
	英語コミュニケーションⅢ	4				4	4
	論理・表現Ⅰ	2	3				
	論理・表現Ⅱ	2		3	2		
	論理・表現Ⅲ	2				2	2
家 庭	家庭基礎	2	2				
	家庭総合	4					
情 報	情報Ⅰ	2		2	2		
	情報Ⅱ	2					
理 数	理数探究基礎	1					
	理数探究	2~5					
宗 教	一般仏教(学)	1	1				
	宗乗・余乗(学)	(3)	(2)	(1)	(1)		
総合的な探究の時間 (実施時間数)		3~6	1	1	1	1	1
科目の単位数の計			35	35	35	34	34
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1
合 計			36	36	36	35	35

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	現代の国語	単位数	2 単位	履修学年	4 年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による考え方を深め、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、言語文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力を伸ばし、他者に自分の思いや考えを適切に伝えられるようにする。 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】現代の国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】グラimesteps現代文2.5（尚文出版）評論速読トレーニング1000（数研出版） 同音同訓漢字帳（いいずな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・『生きもの』として生きる＜ものの見方＞ ・『本当の自分』幻想＜自己と他者＞ ・「羅生門」 【論理分析】 ・対比「間の感覚」 ・具体と抽象 「日本語は世界をこのように捉える」 			<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・事柄が的確に伝わるように表現を工夫する。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「水の東西」＜比較文化＞ ・「ものとことば」＜言語＞ ・『文化』としての科学＜科学・技術＞ ・「夢十夜」 【論理分析】 ・事実と意見「『私作り』とプライバシー」 ・推論「A Iは哲学できるか」 			<ul style="list-style-type: none"> ・評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析し、筆者の主張をまとめる。 ・現代社会の諸問題について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・比喩などの修辞を理解する。 ・主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・帰納法で推論する評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「フェアな競争」＜社会・政治＞ ・「不均等な時間」＜時間と近代＞ ・「城の崎にて」 ・「ロビンソンの人間と自然」＜環境問題＞ 【論理分析】 ・主張と根拠 「デザインの本来」 ・主張と反論 「『動機の語彙論』という視点」 			<ul style="list-style-type: none"> ・時間と近代に対する人間の態度や、自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、文章の構成や展開、表現の仕方を工夫する。 ・文章を分析的に読み、根拠の妥当性と主張との関係を理解する。 ・反論を示すことによって自分の主張の正しさを伝える論理の展開の仕方を理解する。 ・表現の工夫を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜漢字・語彙の小テストを行い、知識の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、探究活動につなげる。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 ・読書の意義と効用を理解させる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	言語文化	単位数	2 単位	履修学年	4 年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉による考え方を深め、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 ・社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけ、言語文化に対する理解を深める。 ・論理的に考える力を伸ばし、他者に自分の思いや考えを適切に伝えられるようにする。 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 ・文語のきまり、訓読のきまりを理解する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につける。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】言語文化（第一学習社）</p> <p>【副教材】新明説総合古典文法（尚文出版）核心古文単語（尚文出版）基礎古文（尚文出版）新明説漢文（尚文出版）漢文読本（大修館書店）新国語総合ガイド（京都書房） 他</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	古文 ・「伊勢物語」 ・「枕草子」 ・古典文法 用言・助動詞・助詞の復習 和歌の修辞法 漢文 ・史伝			<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な古典文法を復習し、読解に生かす。 ・歌物語の内容を理解し、当時の社会の有様を捉えるとともに、和歌の修辞技法について理解する。 ・随筆の内容を理解し、作者の思想や感情を読み取る。 ・漢文の基本的語彙や構文に目を向け、修得を目指す。また、漢文独特の表現に慣れる。 			
2	古文 ・「土佐日記」 ・「徒然草」 ・「平家物語」 ・古典文法 敬語 漢文 ・思想			<ul style="list-style-type: none"> ・随筆や日記の中に表れている筆者のものの見方や考え方、感じ方に触れ、自分の考えを広げたり、深めたりする。 ・軍記物語を読み、争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。 ・敬語について文語の決まりを理解する。 ・古典の文章に表現された人生観に触れ、現代との感覚の違いを踏まえた上で、深く理解し、自己に通じる部分を発見し、考察する。 			
3	古文 ・「万葉集」 ・「古今和歌集」 ・「新古今和歌集」 ・「奥の細道」 漢文 ・漢詩			<ul style="list-style-type: none"> ・三大歌集の特色の違いについて理解を深める。 ・俳諧紀行文における散文と句の関係を理解し、作品に表れた作者の思想や心情を捉える。 ・漢詩の規則を理解し、漢詩に表現された詩人の価値観や自然観を味わう。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材やプリント教材を活用し、より発展的な学習を進める。 ・家庭学習や自主学習のために問題集を適宜用いる。 ・古文単語の知識を定着させるため、適宜古語の小テストを実施する。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2単位	履修学年	4年全
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、近現代の歴史を理解する。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察する。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の近現代の歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	教科書 『歴史総合 近代から現代へ』（山川出版社） 副教材 『新歴史総合 要点ノート』（啓隆社）						
1	第Ⅰ部 近代化と私たち			<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家成立の萌芽が、近世に存在したことを理解する。 			
	第1章 結びつく世界			<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命がヨーロッパとアジアの社会・経済に影響を与え、世界市場が形成されたことを理解する。 			
	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立			<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパにおいて、革命を経て市民の政治参加への道が開かれる過程を理解する。 			
	第3章 明治維新と日本の立憲体制			<ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動の展開を経た日本が、立憲体制を形成することを理解する。 			
2	第4章 帝国主義の展開とアジア			<ul style="list-style-type: none"> ・列強の帝国主義政策と、日本がそれと衝突、または伍しつつ国際的地位を確立する過程を理解する。 			
	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち			<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦とその前後における欧米やアジアの国際情勢を把握する。 			
	第5章 第一次世界大戦と大衆社会			<ul style="list-style-type: none"> ・大正デモクラシーなどを基に、大衆社会の形成と社会運動の拡大について理解する。 			
	第6章 経済危機と第二次世界大戦			<ul style="list-style-type: none"> ・世界的に国際協調・軍縮が進められた時期もあったが、やがて限界が訪れたことを踏まえ、その課題についても考察する。 			
3	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革			<ul style="list-style-type: none"> ・昭和初期の経済、外交の行きづまりが軍部の台頭を招き、戦争に繋がったことを理解する。 ・終戦後、新国際秩序が構築され、日本が民主化を経て国際社会への復帰へと向かう経緯を理解する。 			
	第Ⅲ部 グローバル化と私たち			<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとソ連の対立を軸とする国際関係の中で、国際政治が変容していったことに着目する。 			
	第8章 冷戦と世界経済			<ul style="list-style-type: none"> ・経済成長、国民生活の向上とともに、日本が経済大国へと成長する過程を理解する。 			
	第9章 グローバル化する世界			<ul style="list-style-type: none"> ・直近の歴史を理解するだけでなく、それを通じて現代社会が抱える諸問題についても考察する。 			
10章 現代の課題							
	学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の図版、映像資料などの補助教材を積極的に使用する。 ・知識の定着と共有を図るため、授業中の発問やグループワークなどを積極的に行う。 ・時事的な事象や国際問題などを授業の中で取り上げることによって、理解の一助とする。 					

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2 単位	履修学年	4 年全
到達目標	<p>① 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システム（以下 GIS）などを用いて、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さに気づく。</p>						
評価の観点・評価規準	<p>【知識・技能】</p> <p>○ 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。</p> <p>○ 地図やGISなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○ 考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などが深まっている。</p>						
使用教材	<p>教科書「地理総合」（東京書籍） 「新詳高等地図」（帝国書院） 副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2024」</p>						
1	<p>第1編 地図や地理情報システム（GIS）でとらえる現代世界</p> <p>1 私たちが暮らす世界 2 地図や地理情報システムの役割 3 資料から読み取る現代世界</p> <p>第3編 持続可能な地域づくりと私たち 1 自然環境と防災</p>			<p>○ 第1編では、地図やGISなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けるとともに、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて学習する。</p> <p>○ 第3編では、さまざまな自然災害に対応したハザードマップなどの地理情報を活用する技能を身に付けるとともに、日本の自然環境の特色、自然災害への備えや対応などについて学習する。</p> <p>また、防災を含めた身近な地域の諸課題についても地域調査の手法を生かしながら学習する。これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>			

2	<p>2 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>第2編 国際理解と国際教育</p> <p>1 人々の生活文化と多様な地理的環境</p>	<p>第2編では、国際理解や国際協力の重要性を認識することを主なねらいとして、特色ある生活文化と地理的環境との関わりや、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題及び民族問題などの地球的課題の解決の方向性について学習する。</p>
3	<p>第2編 国際理解と国際教育</p> <p>2 生活圏の調査と地域の展望</p>	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的知識の徹底をはかる。 ・ 各地域世界の特徴を知るとともに、世界における日本の位置を把握させる。 ・ 講義式の学習形態だけでなく、発表やテーマに沿った学習などを積極的に活用し、生徒自身の授業への積極的参加を求めていく。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	公共	単位数	2 単位	履修学年	4 年全
到達目標	幸福、正義、公正など、人間と社会のあり方についての見方、考え方をはたらかせ、現代社会の諸課題の解決に向け、社会に参画する主体として自立し、他者と協働して考察できる資質をみにつける。そのために倫理、社会、政治、法、経済、国際関係の諸課題を知り、それに対する主体的な意見をもてるように努める。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な用語を理論的、体系的に理解すると同時に、その語句を自らの言葉で説明し、議論などに正しく使うことができるか。						
	【思考・判断・表現】 データをグラフや表などからしっかりと読みとり、客観的にそれを理解し、自分の体験などを振り返りながら、自分なりの意見につなげることができるか。そしてそれを、正しい知識や表現を使いながら、客観的に伝えることができるか。						
	【主体的に取り組む態度】 一方通行の授業を受けるのではなく、発問等に対し、他者の判断に流されるのではなく、自分なりの意見を持つことができるか。また一つの判断に固執せず、様々な意見を聴きながら多面的に考察し、積極的に新しい発想で物事を考えようとしているか。						
使用教材	詳述公共（実教出版）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	社会をつくる私たち 青年期の意義 青年期と自己形成の課題 職業生活と社会参加 現代社会と青年の生き方 人間としてよく生きる ギリシア思想 宗教の教え 人間の尊重 人間の自由と尊厳 個人と社会 主体性の 確立 他者の尊重 公正な社会 民主社会の倫理 人間の尊厳と平等 自由・権利と責任・義務			青年期の心理を理解し、自我の確立を促しながら自立とは何かを考察させる。多様性という言葉から、個人の個性とは何か、人間の多様性と共通性とは何かを理解する。 先哲の思想を通じて、人間の尊重、個人と社会、個人と他者との関係をどのように構築していくのかを考えさせる。 自由、権利とは何か、それに対し発生する責任や義務とは何か、両者は対立するものなのか否かを考えさせる。			
2	民主主義国家における基本原理 人権保障の発展と民主政治の成立 国民主権と民主政治の発展 日本国憲法の基本的性格 日本国憲法の成立 平和主義とわが国の安全 基本的人権の保障 人権の広がり			人権がどのような過程で獲得されてきたか、民主政治とは何かを理解させる。 憲法に規定されている人権保障を学びながら、判例などを通じて理解し、その大切さを考えさせる。			
3	日本の政治機構と政治参加 政治機構と国民生活 人権保障と裁判所 地方自治			日本の政治機構がどのような仕組みとなっているのかを理解し、政治を実行していく働きを学ぶ。 選挙の仕組みやあり方、課題などを理解し、近い将来の主権者としての自覚を深めさせる。			
学習上の留意点	一方的な知識伝達型の授業にならないように留意する。 ニュースなどを学習上では随意取り上げ、机上の学習ではなく、現実の理解をうながすものであることを教師が心掛け、生徒へも意識付けをさせる。 議論の中においては、異なる意見であったとしても、それを一方的に否定するのではなく、その考えに至った理由などを理解させることにより多角的に考え、より自分の意見を深化させていくことができるような指導を心がける。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 I	単位数	3 単 位	履修学年	4 年
到達目標	数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、主体的にそれらを活用する態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「数学Ⅰ」 副教材：数研出版「数学Ⅱ」 「4STEP 数学Ⅰ+A」「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A」 「4STEP 数学Ⅱ+B+C〔数列、統計的な推測、ベクトル〕」 「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C〔ベクトル〕」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 数学Ⅰ 第2章 集合と命題 数学Ⅰ 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ			整式の加法・減法・乗法の仕組みを理解し、乗法公式が使えるようにし、基本的な計算ができるようにする。また、整式の因数分解ができるようにする。 自然数・整数・有理数・無理数の意味がわかり、区別ができ、実数について理解する。次に、根号を含む実数の四則演算ができるようにする。 1次不等式の意味を理解し、不等式の性質を利用して不等式（連立不等式を含む）を解けるようにする。 集合の意味や用語を理解する。部分集合、共通部分と和集合、全体集合と補集合など、集合間の関係を理解する。必要条件と十分条件の意味を理解する。対偶を利用した証明、背理法による証明ができるようにする。 2次関数の一般形について、平方完成の技術を応用して頂点の座標や軸の位置を調べ、座標平面にそのグラフがかけられるようにする。また、定義域が制限されている場合を含め、2次関数			

	<p>第2節 2次方程式と2次不等式</p> <p>関数についての発展的内容 (三角関数・指数関数・対数関数・微分法・積分法)</p>	<p>の最大値・最小値が求められるようにする。次に、ある条件を満たす2次関数の係数を求めることができるようにする。</p> <p>2次方程式を、因数分解や平方完成によって解けるようにし、さらに解の公式を覚え、使えるようにする。次に、解が実数になるための条件を理解し、解の判別のために判別式が使えるようにする。2次関数のグラフと座標軸との交点を求め、2次不等式が解けるようにする。</p> <p>関数の発展的学習として、弧度法を取り入れ、それを用いた三角関数の性質や定理を用いて、関数についての理解を深める。また、指数法則や対数の定義・公式を理解し、それを利用して、簡単な指数や対数の演算ができるようにし、基本的な指数関数・対数関数のグラフがかけられるようにする。また、微分係数や導関数の意味を理解し、曲線の接線や関数の増減・極値を調べられるようにする。また、微分法の逆演算として積分を学び、積分を利用して図形の面積を計算できるようにする。</p>
2	<p>数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第1節 三角比</p> <p>第2節 三角形への応用</p> <p>数学Ⅰ 第5章 データの分析</p>	<p>正接・正弦・余弦の意味を理解し、特殊角に対する値を求められるようにする。三角比の相互関係を理解し、活用できるようにする。鈍角に対する三角比について、座標平面における円周上の点Pの座標を考えることで理解する。</p> <p>三角比を平面図形の性質や図形の計量に利用する方法（正弦定理・余弦定理など）を知り、三角形の内角の大きさや辺の長さ・面積などを計算できるようにする。さらに、空間図形へも応用できることを理解し、空間内での図形の計量計算ができるようにする。</p> <p>度数分布表、ヒストグラム、代表値、四分位範囲、分散、標準偏差について理解し、データの分析に活用できるようにする。散布図を利用して、相関関係を読み取ることができるようにする。相関係数について理解し、データの分析に活用できるようにする。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書に沿って説明し、問題集4STEPを使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。</p> <p>問題集については、STEP Bと発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP Aの問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 II	単位数	1 単 位	履修学年	4 年
到達目標	式と証明、複素数と方程式の考え方を理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、主体的にそれらを活用する態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「数学II」 副教材：数研出版「4STEP 数学II + B + C [数列、統計的な推測、ベクトル]」 「チャート式基礎からの数学II + B + C [ベクトル]」						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	数学II 第1章 式と証明 第1節 式と計算			整式の展開、因数分解ができるようにする。二項定理を理解し、二項係数を計算できるようにする。整式の割り算、分数式の計算ができるようにする。恒等式の性質を理解し、活用できるようにする。			
3	第2節 等式と不等式の証明 数学II 第2章 複素数と方程式			等式を証明する方法を理解する。不等式を証明する方法を理解する。 数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。			
学習上の留意点	授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。 問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数 学	科目	数 学 A	単位数	2 単 位	履修学年	4 年
到達目標	場合の数と確率、図形の性質及び数学と人間の活動について理解し、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、主体的にそれらを活用する態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念や原理・法則の体系的に理解し、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身についているか。						
	【思考・判断・表現】 事象を簡潔・明瞭・的確に表現し、論理的に考察する力、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が養われているか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度が養われているか。						
	【基準】 定期考査・長期休暇明けのテスト・小テストの得点、授業中での講義を聴く態度、授業内容に関する質問を意欲的にするかどうか、演習授業での発表の内容、家庭学習課題の出来具合、授業中での質問・意見を基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「数学A」 副教材：数研出版「数学II」「数学B」 「STEP 数学I+A」「チャート式基礎からの数学I+A」 「4STEP 数学II+B+C〔数列、統計的な推測、ベクトル〕」 「チャート式基礎からの数学II+B+C〔ベクトル〕」						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	数学A 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率 数学A 第2章 図形の性質 第1節 平面図形			<p>樹形図の書き方を習得する。和の法則や積の法則を理解し、「場合の数」の計算方法として使えるようにする。順列・組合せに関する基本公式を理解したうえで、円順列・重複順列や同じものを含む順列などについての考え方を習得し、具体的な問題でその使い方を練習し、計算できるようにする。</p> <p>試行と事象の意味、事象が集合で表されることを理解する。根元事象と「同様に確からしい」ということの意味を理解し、そのときの確率の定義を明確に理解する。確率の基本性質を理解し、加法定理と余事象の確率を導き、使い方を習熟する。反復試行の確率や期待値についてその意味を理解し、計算できるようにする。</p> <p>三角形の辺の比、三角形の外心・内心・重心・垂心の性質、チェバの定理・メネラウスの定理とその逆、円に内接する四角形の性質、円の接線、接弦定理、方べきの定理、2つの円の位置関係を理解し、活用できるようにする。また学習した内容を活用し、作図が出来るようにする。</p>			

	<p>第2節 空間図形</p>	<p>空間における直線や平面の位置関係について理解する。空間における直線や平面のなす角などについて理解する。多面体に関するオイラーの定理について理解する。</p>
<p>3</p>	<p>図形の性質についての発展的内容 (図形と方程式)</p> <p>数学A 第3章 数学と人間の活動</p> <p>数学と人間の活動についての発展的内容 (数列)</p>	<p>図形の性質の発展的学習として、座標平面上における x、y の方程式が表す図形及びその性質を理解する。</p> <p>倍数や約数及びそれらの性質について理解する。最大公約数や最小公倍数について理解する。最大公約数と最小公倍数の関係を理解し、整数に関する問題解決に利用できるようにする。整数を割り算の余りで分類することを理解し、整数に関する問題解決に利用できるようにする。ユークリッドの互除法について理解し、これを用いて最大公約数を求めることができるようにする。ユークリッドの互除法の計算を逆にたどることによって得られる最大公約数の基本定理を理解する。1次不定方程式とその解法を理解し、自然数に関する問題の解決に利用できるようにする。分数が有限小数か循環小数になることの意味を理解する。n進法の仕組みを理解する。二進数や三進数を十進数に変換したり、十進数を二進数や三進数に変換したりできるようにする。</p> <p>整数の性質の発展的学習として、数列の概念や数列に関する用語の意味を理解する。また、等差数列や等比数列の定義を理解し、その一般項や和を求めることができるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書に沿って説明し、問題集 4STEP を使って演習を行います。宿題に取り組むことは当然ですが、前もって教科書に目を通しておいたり、授業内容をその日のうちにもう一度確認したりするなど、予習や復習をすることも非常に大切です。</p> <p>問題集については、STEP B と発展問題を中心に授業で扱いますが、STEP A の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、チャート式基礎からの数学については授業では扱いませんが、定期考査等の試験範囲に組み入れます。家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	4 年
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・物質量の基本概念を身に付けさせる。 ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・酸と塩基の基本概念を身に付けさせる。 ・酸化と還元の基本概念を身に付けさせる。 ・化学の原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用 教材	教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：フォトサイエンス化学図録						
学期	学習内容		学習のねらい				
1	序 章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式		<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について考える。 ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオン結合からなる物質の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができている事を理解する。 ・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 ・原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 ・物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 ・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 				
2	第2編 物質の変化 第2章 酸と塩基の反応		<ul style="list-style-type: none"> ・酸と塩基の定義について理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及び pH について理解する。 ・酸と塩基の性質と、中和に関与する物質の量的関係を理解する。 				
3	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> ・酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 ・酸化と還元に関与する物質の量的関係を理解する。 ・酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。 ・酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。 ・大学入試に対応できる基礎学力を養う。 				
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験を取り入れながら、自然に関心をもち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・学習のねらいを実現するため、発展的内容を取り入れる。 ・必要に応じてプリントを用い、演習を行う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物理基礎	単位数	2単位	履修学年	4年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ベクトルとスカラーの基本概念を身に付けること。 物体にはたらく力を図示できること。 ニュートンの運動方程式を理解すること。 仕事と運動エネルギーの関係、力学的エネルギー保存則を理解すること。 熱力学第一法則を理解すること。 波とは何かを理解し、数学的な取り扱いができること。 電気と磁気の基本概念を身に付けること。 物理的なものの方や考え方を高め、物理学的に探求する能力と態度を持つこと。 物理学が日常生活や社会の中でどのように関わっているのか学び、未来の科学技術の在り方やエネルギー問題について意思決定するために必要な科学的知識、能力、態度を身に付けること。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：東京書籍「物理基礎」 副教材：4月に選定後、購入予定						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物体の運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 速度，加速度，落体の運動 第2章 さまざまな力とそのはたらき 力とそのはたらき，力のつりあい，運動の法則，摩擦を受ける運動，液体や気体から受ける力 第3章 力学的エネルギー 仕事，運動エネルギー，位置エネルギー			<ul style="list-style-type: none"> ベクトル量の合成と分解ができるようにする。 加速度の意味を理解する。 力を図示しその力の種類がわかるようにする。 力のつりあいと作用反作用の違いを理解する。 落体の運動を理解する。発展的に斜方投射まで扱えるようにする。 ニュートンの運動の3法則を理解し，運動方程式が立てられるようにする。 仕事と運動エネルギーの関係，仕事と位置エネルギーの関係を理解する。 			
2	第3章 力学的エネルギー 力学的エネルギーの保存 第2編 さまざまな物理現象とエネルギー 第1章 熱 熱と物質の状態，熱と仕事 第2章 波 波と媒質の運動，波の伝わり方			<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの原理を理解し，力学的エネルギー保存の法則が立てられるようにする。 熱とは何か，温度とは何かを理解し，熱量保存の式を立てられるようにする。 熱力学第一法則と，熱機関について理解する。 波の反射，屈折，干渉，回折，重ね合わせに関しての直感的理解ができるようにする。 波の式を理解し，波についての数学的な取り扱いができるようにする。 			
3	第2章 波 音の性質，発音体の振動と共振・共鳴 第3章 電気と磁気 電気の性質，電流と電気抵抗，電気とエネルギー 電流と磁場，交流と電磁波 第4章 エネルギーとその利用			<ul style="list-style-type: none"> 音は縦波であり，空気の振動が伝わっていく現象であることを理解する。 弦の振動と気柱の振動の現象を理解する。 静電気と電気量，電場の概念を理解する。 オームの法則，ジュールの法則を理解し，電流回路式が立てられるようにする。 磁石が作る磁場と電流が作る磁場について理解する。 いろいろなエネルギーとその利用について理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 日常の観察や体験などを通して，自然界の現象に関心を持ち，科学的な視点をもって探求しようとする態度を大切にしてください。 教科書の内容の完璧な理解を目指しましょう。授業前後には，必ずしっかり読んでください。 学習の定着をはかるために，問題演習を家庭でも行ってください。その際，計算用紙を沢山使って自分の手で何度も計算してください。問題集，小テスト，定期試験・模擬試験は繰り返し解くなどしっかり復習することが大切です。公式を自分で導くことで理解を深めてください。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	履修学年	4 年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解し、生物についての共通性と多様性の視点を身に付ける。 体内環境の維持する仕組み、健康との関係について理解する。 生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】日常生活や社会との関係を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、生物や自然現象から問題を見出し、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしているか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書：数研出版「生物基礎」 副教材：教科書傍用問題集を適宜使用</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現</p>			<ul style="list-style-type: none"> 生物基礎で学習する内容の概要を把握する。学習を進めるうえで重要となる探究のプロセス、顕微鏡の使い方を習得する。 酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。 遺伝子の本体であるDNAの構造と、遺伝情報はその塩基配列にあることを理解させる。 転写と翻訳を通し、生命現象に重要なタンパク質の合成について学習する。 DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が次世代に伝えられることを理解させる。 			
2	<p>第2編 遺伝子とそのはたらき 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき</p>			<ul style="list-style-type: none"> 体内の細胞にとって体液は環境であり、その環境が一定に保たれていることを理解させる。 腎臓と肝臓の働き、循環系の特徴、自律神経系と内分泌系（ホルモン）の調節、免疫の基本的な概念と原理について学習し、恒常性が保たれる仕組みを理解させる。 			
3	<p>第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全</p>			<ul style="list-style-type: none"> 世界各地には、気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成立していることを理解させる。 遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。 生態系において物質が循環し、それに伴ってエネルギーが移動することを理解させる。 生態系のバランスについて理解し、復元力について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、学習を定着させる。 身近な例を取り上げながら理解させる。 自然に関心をもち、科学的に探求しようとする事。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男女）	単位数	2 単位	履修学年	4 年	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動の特性に応じた技能等および社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。 ・運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ・生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 							
評価の観点・評価基準	【知識・技能】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の合理性、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身につけている。また、個人および社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに技能を身につけている。 							
	【思考・判断・表現】							
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人および社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。 							
	【主体的に学習に取り組む態度】							
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わう事ができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。また、健康増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。 							
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2024」 「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）							
1	体づくり運動（集団行動等）	バレーボール					<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解し、自己の課題に応じた健康増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てることができるようにする。 ・バレーボールに自主的に取り組ませるとともにフェアプレイを大切にさせる。 ・ネット型球技の特徴を理解し仲間とともに課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫して取り組ませる。 	
	体育理論（1・2）						<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について学ばせる。 	
2	陸上競技 器械運動						<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組ませ、それぞれ技術や体力の高め方などを学ばせる。また、自己や仲間の課題を発見し合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者へ伝えさせる。 	
	体育理論（3・4）						<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック、パラリンピックの意義について学ばせるとともにスポーツが経済に及ぼす効果を理解させる。 	
3	ダンス						<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組ませ、良い演技を讃えあい、互いの課題を発見し合理的な解決に向けて工夫して取り組ませるとともに自分の考えを他者に伝えさせる。 	
	体育理論（5・6）						<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの高潔さとドーピングについて考えさせる。 	
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にする。 ・話し合いに貢献する。 ・健康・安全を確保する。 ・体育理論を適時実施する。（6時間） 							

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1 単位	履修学年	4 年
到達目標	<p>・ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び健康的な環境づくりの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用及び社会生活における健康の保持増進について理解できるようにする。</p> <p>・心身の健康の保持増進を図るための思考力、判断力、表現力を養い、健康を大切にし、明るく豊かに生活する態度などの資質や能力を育成する。</p> <p>・安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当や危険予測、危機回避を表現できるようにする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。</p>						
使用教材	「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
1	<p>1 単元 現代社会と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた 3. 生活習慣病の予防と回復 4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復 6. 運動と健康 7. 食事と健康 8. 休養・睡眠と健康 9. 喫煙と健康 10. 飲酒と健康 			<ul style="list-style-type: none"> ・健康の成り立たせている要因を理解し、わが国の健康問題について考える。 ・生活習慣病やがんの種類や原因について理解し、予防や治療法、緩和ケア、社会的な対策が説明できるようにする。 ・運動、食事、休養・睡眠の重要性を理解させる。 ・喫煙や飲酒による健康への影響、個人や社会の対策について理解する。 			
2	<ol style="list-style-type: none"> 11. 薬物乱用と健康 12. 精神疾患の特徴 13. 精神疾患の予防 14. 精神疾患からの回復 15. 現代の感染症 16. 感染症の予防 17. 性感染症・エイズとその予防 18. 健康に関する意志決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり 			<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用に対する正しい知識を理解させる。 ・精神疾患について、発病の要因や現代社会における課題を理解し、予防から回復まで適切に対処できる力をつけさせる。 ・感染症や性感染症・エイズの実態について学ぶとともに予防対策についても理解させる。 			
3	<p>2 単元 安全な社会生活</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故の現状と発生要因 2. 安全な社会の形成 3. 交通における安全 4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当 6. 心肺蘇生法 			<ul style="list-style-type: none"> ・社会、家庭生活での事故の発生要因を理解し、安全確保のための行動や必要な環境整備について知る。 ・交通事故防止における取り組み、交通社会で必要とされる資質と責任について理解させる。 ・応急手当の手順や方法を理解させる。また、自らすすんで、適切に対処できるようにさせる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・保健ノート、プリントを活用し、生活習慣と自らの健康について考える。 ・DVD（動画教材）・パワーポイント等を利用し、理解を深める。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3単位	履修学年	4年
到達目標	英語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を意識し、ある程度の長さの英文を速読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。						
評価 の 観点・ 評価 基準	【知識・技能】						
	(1) 必要な情報を聞き取り、概要や要点を捉えることができる。（聞くこと） (2) 語彙・文法・語法を身につけ、英文の読解が正しくできる。（読むこと） (3) 基本的な語句や文を用いて、考えや気持ちなどを話して伝えることができる。（話すこと・やり取り） (4) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。（話すこと・発表） (5) 語彙・文法・語法を身につけ、正しい英文を書くことができる。（書くこと）						
	【思考・判断・表現】						
(1) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりできる。（聞くこと・読むこと） (2) 情報や考え、気持ちなどを話したり、論理性に注意し話し合ったりすることができる。（話すこと・やり取りと発表） (3) 目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題などについて、論理的に書くことができる（書くこと）							
【主体的に学習に取り組む態度】							
(1) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を聞こうとしている。（聞くこと） (2) 授業や家庭学習において、自律的に英語で書かれたものを読もうとしている。（読むこと） (3) 授業中において、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。（話すこと・やり取り） (4) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。（話すこと・発表） (5) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。（書くこと）							
使用教材	教科書： CROWN English Communication I (15 三省堂 CI 707) 準教科書等： NEW TREASURE STAGE3 文法問題集 その他プリント等						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学 期	・ Lesson1 The Blue White Shirt to不定詞／動名詞 ・ Lesson2 Does It Spark Joy? 現在完了／現在完了進行形／助動詞 ・ Lesson3 Hatching the Egg of Hope 関係代名詞／分詞の形容詞的用法／受動態			・ 筆者の意向、考えを理解し、概要や要点をとらえることができるようにする。また、本文の内容について、自分の考えや意見を書いたり、相手に伝えたりすることができるようにする。 ・ 高校英語の学習に必要な基礎知識を身につけ、活用			

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> • Lesson4 Digging into Mystery 過去完了／過去完了進行形／ 関係代名詞 what／ S+V+O (O=疑問詞節、if 節) • Lesson5 Roots & Shoots 分詞構文／it ~ that (形式主語) / 同格 • Lesson6 You and Your Smartphone --Who's in Charge? 関係副詞／S+V+O+C (C=原形不定詞／分詞) • Lesson7 Living in Alaska seem to ~ ; it seems that ~ / S+is+C (C=that節) / S+V+C (C=分詞) 	<p>できるようにする。 (句読法、フレーズリーディング、ディスコースマーカ、パラグラフの構成)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基礎的な語彙力の習得に努め、英文読解力を養う。 • 各単元で学習する英文法の基本をおさえ、問題演習を通じてその理解を深める。 • 音読の重要性を学び、英文を正しく音読できる力を身につける。 <p>(音の連結／脱落／同化、文の区切り、強勢とリズム、イントネーション)</p>
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> • Lesson8 Not So Long Ago 仮定法過去／S+V+O₁+O₂ (O₂=疑問詞節) / 付帯状況を表すwith ~ • Lesson9 Our Lost Friend 受動態の完了形／助動詞+be+過去分詞／ 関係代名詞の非制限用法 • Lesson10 Good Ol' Charlie Brown 仮定法過去完了／ used to ~ ; would ~ など 	
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> • 適宜、準教科書やプリント等を使用し、発展的内容に取り組む。 • 予習、復習という家庭での学習を徹底する。 • 中学校で学習した文法事項、基本単語や表現を土台とし、発展的な内容への理解を深める。 • ただ英文の内容を読み、概要や要点を理解するのではなく、何のために読むか、というような目的を持って活動に取り組むことができるようにする。 • 各単元で学習する文法事項、基本単語や表現を、知識を蓄えることだけを目的として学習するのではなく、様々な言語活動で活用できるようにする。 	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現 I	単位数	3単位	履修学年	4年
到達目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの三つの領域を意識し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を更に伸ばし、社会生活においても活用できるようにする。また、大学入試の読解問題にも対応する実力を養成する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】						
	(1) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して、伝え合ったり、やりとりを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。 (話すこと・やり取り) (2) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (話すこと・発表) (3) 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 (書くこと)						
	【思考・判断・表現】						
(1) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができるようにする。 (話すこと・やり取り) (2) 意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。 (話すこと・発表) (3) 基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。 (書くこと)							
【主体的に学習に取り組む態度】							
(1) 授業中において、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。 (話すこと・やり取り) (2) 授業中の発表の場面で、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。 (話すこと・発表) (3) 授業や家庭学習において、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。 (書くこと)							
使用教材	教科書： CROWN English Logic and Expression I (15 三省堂 論 I 704) 準教科書等： 基礎からの新々総合英語 Grand View English Grammar in 48 Stages Grand View English Grammar in 48 Stages Work Book その他プリント等						
1学期	・ Lesson1 Orihime 人生、生き方/時制 ・ Lesson2 Breakfast Makes Perfect 食生活と健康/助動詞 ・ Lesson3 Cool Japan 日本文化/受動態			W: 適切な時制を選択する S: スピーチ (発表の開始や終了に関する表現) W: 心の様子を助動詞で表現する S: プレゼンテーション (説明と内容の列挙に関する表現) W: 視点によって能動態と受動態を使い分ける W: ライティング (紹介文の構成)			

<p>2 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Lesson4 Save Our Planet 環境問題／不定詞 • Lesson5 Volunteer Work for What? ボランティア／動名詞 • Lesson6 Another Life I might have had 文学、読書／分詞 • Lesson7 What Is Our Greatest Invention? サイエンス、発明／比較 	<p>W: 役割によって動詞の形を変える (名詞、形容詞、副詞)</p> <p>S: ディスカッション (考えや感想を求めたり、意見を述べたりする表現)</p> <p>W: 不定詞と動名詞の意味的な違いを理解する</p> <p>S: ディベート (自分の主張と理由を明確に伝える表現)</p> <p>W: 役割によって動詞の形を変える (形容詞)</p> <p>S: スピーチ (聞き手へ問いかけたり、自分の主張を裏付けたりする表現)</p> <p>W: 物事を比較して表現する</p> <p>S: プレゼンテーション (意見や理由を述べる表現)</p>
<p>3 学 期</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Lesson8 Discover Japan 都市、観光／関係詞 • Lesson9 Urban Life or Rural Life 交通、地域／仮定法 • Lesson10 Music Without a Pianist 芸術、テクノロジー／接続詞 	<p>W: 関係詞を用いて、より詳しい説明を加える</p> <p>W: ライティング (情報を追加したり、結果を示したりする表現)</p> <p>W: 事実に反する内容を表現する</p> <p>S: ディスカッション (異なる意見を受け入れた上で、自分の考えを述べる表現)</p> <p>W: 接続詞の種類と働きを理解する</p> <p>S: ディベート (立論、反論、ディベートの進行に必要な表現)</p>
<p>学習 上の 留意 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 予習、復習、発表の準備といった、家庭での学習を徹底する。 • 各単元で実施する言語活動において有用な表現を習得し、活用できるようにする。 • 中学校で学習した文法事項、基本単語や表現を定着させ、英語の基本ルールに従って正しい英文を作れるようにする。 • 論理の構成や展開を工夫しながら英語を話したり書いたりできるよう、提示されている模範的な英文の構造や使用場面をよく理解し、活用できるようにする。 	

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2 単位	履修学年	4 年
到達目標	生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。学んだ知識・技能を生かして、持続可能な社会を構築する暮らしの担い手になる。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活、環境問題などについて理解していると共に、生活情報を適切に収集・整理できたか。</p> <p>【思考・判断・表現】課題を設定して解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを、根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する姿勢を身につけたか。</p> <p>【主体的に取り組む態度】様々な人と協働し、自分や家庭、地域生活の充実・向上を図るために、主体的に取り組み、実践しようとしているか。</p> <p>実習状況、提出物や発表及び、定期考査などを観点に基づいて評価する。</p>						
使用教材	<p>「家庭基礎 自立・共生・創造」東京書籍</p> <p>「生活学Navi」実教出版</p> <p>自作教材</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>家庭科を学習するにあたって</p> <p>【経済生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費社会 ・消費者問題について <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題について ・環境を配慮した生活 			<p>「家庭基礎」の概要について理解する。</p> <p>現代社会における消費生活や消費者問題を知り、自ら考えて適切な消費行動をする力を身につける。</p> <p>環境問題について、積極的に調べ課題をまとめる。身近な生活が環境に与える影響を知り「今、何ができるか」をプレゼンすることで、持続可能な社会を目指したライフスタイルを考え、実生活に活かす。</p>			
2	<p>【高齢社会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者について（車椅子体験等） ・高齢社会の現状と課題 ・高齢者を支える社会の仕組み <p>【衣生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服材料の特徴や性能 ・被服管理 ・被服実習 			<p>自分以外の人々との関わりについて考え、福祉のあり方と社会の仕組みを学ぶ。社会を福祉の視点から見て、今後の生活で実践できることを考え、行動することを目指す。</p> <p>快適な衣生活を営むために、必要な知識や技術を習得し、自分らしい衣生活を創造する力を身につける。</p>			
3	<p>【食生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活について ・栄養と食品 ・調理の基礎 ・献立と調理(実習) 			<p>健康的で豊かな食生活を送ることを目指す。基礎知識を習得し、調理実習をする。また、実習の振り返りを通して栄養バランスを考える力を身につけ、実生活に活かす。</p>			
学習上の留意点	教科書や資料集、自作教材等を用いて学習したり、体験型学習で、できるだけ具体的に理解できるようにしていく。また常に実生活を見直すことで、より良い生活を目指す力を身につけさせる。知識を活かし、実習を行うことで基礎技術の定着をはかる。レポート作成によって、自己を評価し、自らの生活に応用する力をつける。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	仏教科	科目	一般仏教	単位数	1 単位	履修学年	4年
到達目標	親鸞思想について『歎異抄』を通して学習することで、その思想をより深く理解する。日常、若い門弟とのあいだにかわされた、何の飾り気もない率直な対話のなかに人間親鸞の思想を学び、その思想が現代社会の多くの課題と解決する智慧であることを学習する。						
評価の観点・評価の基準	<p>1. 知識の理解・・・『歎異抄』成立の背景、聖人の法語（師訓）や唯円の歎異（異義）について理解しているかどうか。又、「悪人正機説」・「他力」・「慈悲」・「往生」といった重要な言葉の真意を理解しているかどうか。</p> <p>2. 思考・・・親鸞と唯円の生き様、思想内容（他力本願思想）を学ぶことによって、人生の意味（人生観）、人間の価値（人間観）、社会でのあり方（社会観）について思考されているかどうか。</p>						
使用教材	『歎異抄』（本願寺出版社）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	4月 歎異抄の成立背景、概要 5月 奥書、序 6月 第一条（弥陀の誓願不思議に） 7月 第二条（おのおの十余箇国の）			<ul style="list-style-type: none"> 歎異抄の成立背景と構成を理解する。 信心、他力という言葉の意味を理解する。 弥陀の誓願について理解する。 宗教的値遇の重要性を理解する。 			
2 学期	9月 第三条（善人なほもつて往生をとぐ） 10月 第四条（慈悲に聖道・浄土のかはりめあり） 11月 第五条（親鸞は父母の孝養のためとて） 12月 第六条（専修念仏のともがら）			<ul style="list-style-type: none"> 悪人正機説について理解する。 慈悲について聖道と浄土の違いを理解する。 追善回向の否定について理解する。 まことの師弟関係、人間関係について理解する。 			
3 学期	1月 第七条（念仏者は無碍の一道なり） 第八条（念仏は行者のために） 2月 第九条（念仏申し候へども） 3月 第十条（念仏には無義もつて義とす）			<ul style="list-style-type: none"> 念仏者のすがたと人間の迷いを理解する。 念仏とは他力の行であることを理解する。 煩惱具足の凡夫の実態を理解する。 他力思想について理解する。 			
学習上の留意点	真の宗教とは、自己の欲望を投影するものではなく、自我とのあいと自己の誕生であることを学習する。仏教への誤解を解き放ち、仏教理解を深めることが現代社会においてどれほど重要であるかを主体的に受容することによって、生命の尊厳性に目覚め、人権を尊重し、社会生活におけるマナーの遵守につなげていく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	総合的な探究の時間	科目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年	4年
到達目標	<p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することをできるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを活かしながら、新たな価値を創造し、より良い社会を実現しようとする態度を養う。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 他教科および総合的な探究の時間で習得する知識・技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されているか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられているか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえているか。</p>						
使用教材	Benesse「探究ナビ」						
1	1. 学問分野を知る 2. 学部の魅力発信プレゼンテーション			<ul style="list-style-type: none"> ・「馴染みあるキーワード」を様々な視点から考え、疑問点を挙げる ・疑問を解決する過程で、その背景にある学問分野に気づき、まとめる。 ・各グループに割り当てられた学部について、その学部で学ぶことの魅力を探し、発信する。 ・文理選択をするにあたり、視野を広げることを目的とする。 			
2	3. 魅力ある大学 “推し大”プレゼンテーション 4. 業界の魅力発信プレゼンテーション 5. 魅力ある企業 “推し企業”プレゼンテーション#1			<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに割り当てられた学部を有する大学を一つ選び、魅力を発信する。 ・各グループに割り当てられた業界について、その業界で働くことの魅力を発信する。 ・各グループに割り当てられた業界に属する企業を一つ選び、魅力を発信する。 ・文理選択をするにあたり、視野を広げることを目的とする。 			
3	6. 魅力ある企業 “推し企業”プレゼンテーション#2 7. 私のキャリアデザイン			<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに割り当てられた業界に属する企業を一つ選び、魅力を発信する。 ・科目選択やコース選択、大学（学部）選択、職業選択など、自分自身のキャリアデザインについて具体的に考える。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付ける力を養う。 ・課題の中にある具体的な問題について情報を収集する手段を学ぶ。 ・情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組む。 ・明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。 						

特別活動の年間授業計画（シラバス）

教科	特別活動	内容	ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事	単位数	1 単位	履修学年	第4学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動に積極的に取り組む中で、望ましい人間関係を形成する。 ・ 将来の自己実現に向けて、自己理解を深める。 ・ 規則正しい生活習慣の確立を図る。 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・ 活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。 						
学期	指 導 内 容 等						
	ホームルーム活動		生徒会活動			学校行事	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高田高校生としての自覚を持たせ集団生活に適應する能力を育成する。 ・ 学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・ 学年ロング 		新入生対面式 クラブ紹介 クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動			始業式 体育祭 中間考査 期末考査 校内人権学習 校外宿泊学習 終業式	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・ 自分の適正や進路について考え、将来を展望できるよう指導する。 ・ 学年ロング 		文化祭 生徒会役員改選 委員会活動 ピンクシャツ運動			始業式 避難訓練 文化祭 校外研修 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一年間を反省し、次年度の心がまえについて考えさせる。 ・ 自分の夢や生き方について考えさせる。 ・ 学年ロング 		クラスマッチ 委員会活動			始業式 校内人権学習 学年末考査 終業式	
学習上の留意点	さまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育てていくことを期待する。						